

<2021年3月期 第3四半期決算説明会 主な質疑応答>

日時 : 2021年2月2日(火) 18:00~19:00

出席者 : CFO 岩本 秀之  
CSO 補佐 尾崎 真人

Q. 資料P5の第3四半期対比について、評価をお聞かせ願いたい。

A. 自動車本部以外の本部はすべて上振れており、足元も好調に推移している。アフリカを除く自動車販売はまだ戻っておらず、前期対比で利益が約2割減という状況。

Q. 自動車の生産について3Qに続いて4Qも堅調に推移すると見て良いか。

アフリカについてはこのままいけば4Qも3Q並みに利益が出ると思って良いか？

A. 自動車生産については内示状況を見る限り4Qもこのまま堅調にいくと思う。  
アフリカは、南アで新規に買収したディーラーの利益が積み重なったことと、ヘルスケアなど自動車以外の分野が良くなってきたダブルのインパクト。

Q. 自動車の販売において回復の遅い地域はどこか、また御社の見立てを教えてください

A. 豪亜が苦戦している。主にインドネシア、カンボジア。恐らく、4Qも苦戦が続くと予想している。少し盛り返したと思うとまたコロナ影響が出て悪くなるということを繰り返しており、読み切れない。

Q. 再エネ事業の利益貢献や持分発電量、洋上風力についてもっと開示したらどうか？

A. 再エネ事業はパートナーとの関係があり、詳細の開示には慎重に対応せざるを得ないが、持分発電量や今手掛けているプロジェクト等に関しても、しっかりと開示していきたいと思っているので、前向きに検討を継続していきたい。  
また洋上風力は報道の通り協議を開始したところ。

Q. 今回2円増配をした結果33%近い配当性向となっている。30%という水準やこれからの配当の方向性、考え方を教えてください。

A. 配当方針は従来と変わらず、配当性向25%以上及び配当金額の持続的な増額を目指すとのポリシーであり、毎期の実額での増配にこだわっていきたい。

Q. 販管費に関して具体的に何を抑えているのか。今後も削減していくのか？

A. 販管費に関してはコロナが始まると同時に、支払手数料など統制可能費目に個別に手を入れコントロールしてきた。出張旅費や会議費等は8割9割削減されてきており、4Qまでは続くと思込む。来期に関しては本来必要な開発費等の費用は出てくる一方で旅費交通費などに関してはニューノーマルな世界でのコストコントロールをすることになる。

Q. 資料 P13 の地域別売上総利益進捗予想について 4Q の東アジアは 155% になっているが、前期の 4Q はコロナ影響が含まれているのか？

A. ご理解の通りで、東アジアに関しては前 4Q に売総ベースで▲46 億円のコロナ影響が入っており、数字が大きく見えている。

Q. 前期と比較して自動車販売の状況は良くなっていくとみているか？

A. 台数よりもコストが削減できたことが一番だと思っているが、我々が扱っている部品、材料の販売は足元では好調。

Q. 4Q の当期利益は通期修正予想から差し引きでいくと 307 億円。3Q の 476 億円から差があるがその理由を教えてください。

A. 過去のトレンドから 4Q は 3Q に比べると落ちる。コロナの影響もあり少し保守的に数字を見ている。

Q. 4Q でネガティブなファクターはあるか？

A. コロナ影響が一番大きいと思う。

Q. 化学品・エレクトロニクスについて詳細を教えてください。

A. 化学品は前年並み。樹脂系の自動車材料が生産台数に応じてマイナスとなった、一方バイオポリエチレンや電池材料、アルコールといった生活関連はプラスで、結果、営業利益で 3 億円のプラス。

エレクトロニクスは、巣ごもり需要やリモートワークなどにより PC やネットワーク系、ゲームのメモリ、5G のスマホ向け部品の取り扱いが増えている。また車載関連も生産台数の増加、需給圧縮に応じてプラスに寄与している。

Q. 資料 P. 14 の本部別業績修正予想について、金属、グロロジ、自動車で修正の幅が異なっている理由は何か。

A. 金属は当初の見通しが強かった。グロロジや自動車はマーケットを保守的に見ていたが、販管費の削減も寄与している。

Q. コンテナ不足、フレートの高騰が今後どのような影響をおよぼすのか教えてください。

A. 船やコンテナのひっ迫は 3Q ですでに影響が出ている。一部の材料、部品はエア対応しており、コストに影響が出始めている。この状況は 4Q も継続していくと考えているが、当社としてはラインを止めないよう対処していきたい。

Q. フレート高騰による先行発注などで、逆に利益が前倒しされる可能性は無いのか？

A. 各社の BCP 対応によりそういう場面も考えられると思う。当社の来年 1Q の利益が 4Q に前倒しされる可能性はある。

Q. 半導体不足はいつまで続くのか、反動は出るのか？

A. フレートの高騰や半導体不足の反動は今年夏頃出るのではないかと。1Qで徐々に調整されて2Qくらいで引きが止まるようなイメージは持っている。

Q. カーボンニュートラルの今後の考え方、取り組み方を教えて欲しい。

A. もともと当社はカーボンニュートラルに対してしっかり寄り添ってきた。石炭をはじめ石油・ガスはトレーディングも含めて撤退してきている。再エネに関してはリーディングカンパニーとして今まで同様にしっかり取り組んでいきたい。

以 上